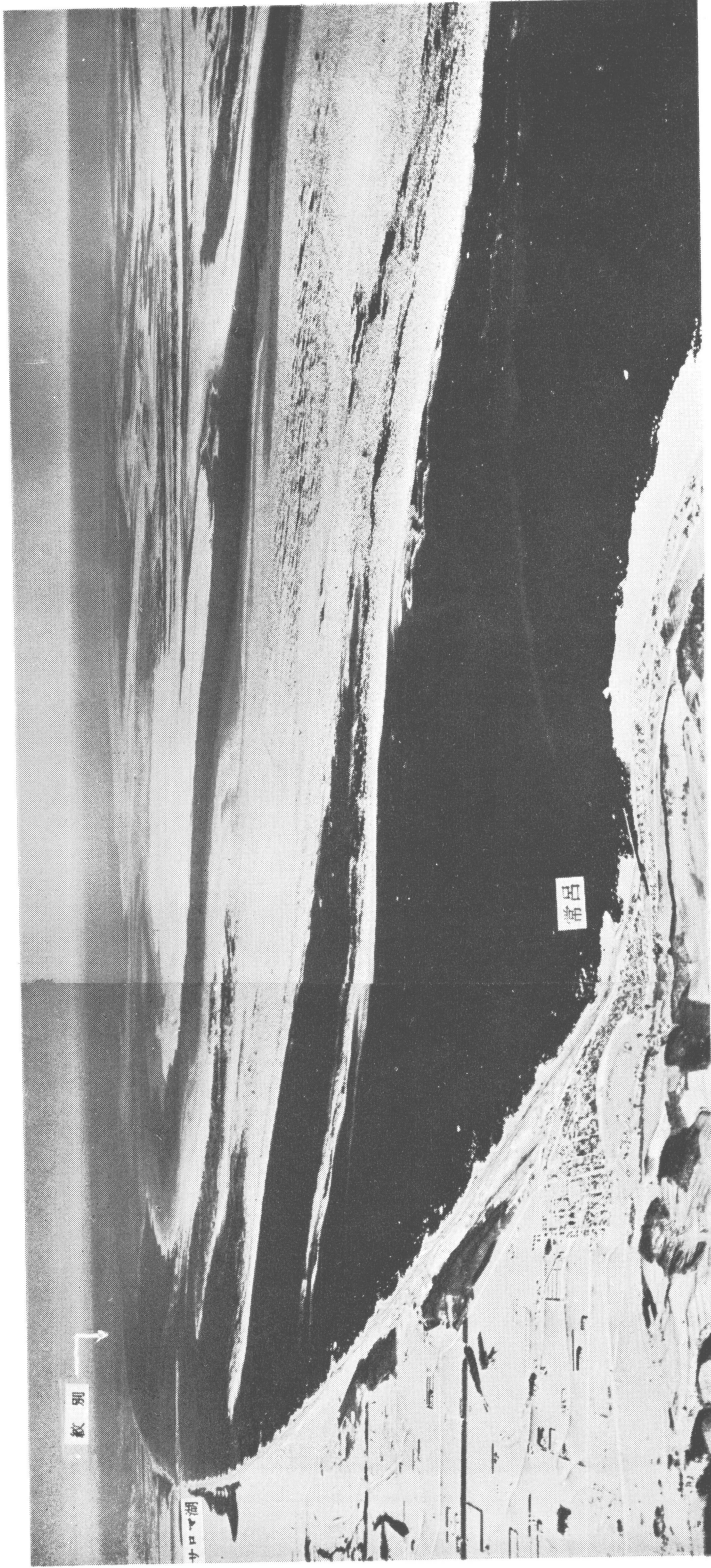


北海道オホーツク海沿岸沖の流氷



写真の説明 北海道オホーツク海沿岸沖の流氷（能取岬附近上空 1,800 m より，1959年2月12日）——流氷の比較的小さい時の写真であるが，氷群がベルト状および縞状をなして北方（写真右上隅側）より絞別，サロマ川沖に接近した後，ほぼ岸と平行して南東（写真右下側）に流れている様子が見られる．白く見える部分が流氷域で，可成り北方で成長してこの海域へ漂流して来た小氷盤（径10～200 m），板氷ならびに砕氷の集りであり，灰色の部分は流氷と共に流れて来た海水がこの近くで結氷して出来た新成氷（主として板氷軟氷）である．なお，常呂港のすぐ沖では盛んに結氷が進行中で，海水の最初の段階である氷泥が縞状および波状に連なっているのが見える．（渡辺賢太郎）